



細江カトリック教会



夏号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

「ごあいさつ」

「振り返ってはならない、塩の柱に成る」(創:19/26)。人間はそう言われても振り返ってしまいます。私が細江教会に初赴任したのは1970年3月でした。半世紀以上前の事です。夜行列車がホームに滑り込み、トランク一つで下関の朝に到着しました。JOCf(カトリック青年労働者運動女子部)の若者達と、矢張り新しく主任司祭に着任された、トマス・リントホルスト神父さんが迎えに出てくださいました。そこで有名な(?)出来事が起こりました。感動して迎えを受け、挨拶を終えた私が置いたトランクを取ろうとすると、持って呉れようとしたリントホルスト神父さんが同時にトランクに向ってかがみ、頭をゴッコしたのです。これは象徴的出会いで、以来何かにつけて主任・助任はゴッコしました。しかし、細江教会での米国に第三修練に出掛ける前の2年間の出会いと経験が、今に到る人生の無二の基礎でした。



今回二度目の協力司祭としての赴任では、長く40年近く生活した日和山の上からの移転で、ゴッコも無く色々お世話に成りながら滑り込んだようです。小教区協力司祭と言う役割です。役割とか肩書はとにかく、あまり大きな声では言えないのですが、小教区で司祭として生活し働くことは、人生を成し遂げる生き方として願ってもない事なのです

父方の祖母が17歳まで北海道へ祖父と駆け落ちするまで、赤間ヶ関(現在の田中町)に住んでいたというのですら、今、90歳の孫がああ辺りを歩くときは、会ったことのない祖母に語り掛ける心こそばゆい時なのです。東京で生まれました

が、翌日受洗のいわゆる「ボンクリ=ボーン・クリスチャンの略」で、戦後焼け野原の東京を追われて鎌倉の小教区由比ガ浜教会(作道神父さんと同じ)で中学を卒業した時、小教区教会も離れて、9年後に不思議な回心の恵みを受け戻るまで決別していました。

母の胎内から生まれて臍の緒を切られた私は、幼児洗礼で神さまの愛に繋がっていたのでした。この繋がりは人間の方から切っても切っても「極み迄愛する」(ヨハネ:13/1)神さまの方からは切らず修復されるのですね。小教区共同体の人々はそのような「いのち」の繋がりの生き様を生きる人々、魂の一番深いところ(芯)で繋がる兄弟姉妹ですね。他の繋がりと区別して特別な集まりを創るという意味ではなく、神の国の繋がりで、「神の国はすでにあなた方の間に始まっている」(ルカ:17/21)。同じ小教区のつながりの中で、お互いに色々違いは有っても、仲悪く不和では、「えっ、それはないだろう!」ですね。いやいや、実は考え違って裏で悪口言って不和の事はよくある話で、恥ずかしいですが世間一般に負けません。私も司祭同士考え違って、不和で心中仲悪い司祭がいますね。でも、戸が閉まっても中に入って「平和があるように」(ヨハネ:20/19)といて下さる復活されたイエスによって「しきり直し」です。にもかかわらずやり直しが効くキリスト者の人生ですね(ルカ:22/32)。感謝。

私達が人生の様々な恵みのときに、其々がそれぞれの洗礼によって神さまの愛に繋げて頂きますが、その繋がりを母なる教会という新しい胎の中でますます強く温かいものと成長します。そして人生のあらゆる時と場で、私達に繋がる人々を森羅万象を神さまに繋げていくのです。その繋がりは神さまの愛を輝かしますから、「感謝の祭儀を終わります、平和の内に行きましょう。

日々の生活の中で神の栄光を輝かすために」という派遣(ミッション)が実現します。

現代様々な国々が分裂対立、こりないで戦争状態にまでなり、経済格差は人間同士の分裂を繰り返しています。人間を育む自然環境を利己的開発による環境破壊により回復・持続不可能に近く迄荒廃させてしまいました。もう遅いかも知れない、しかし希望の無いところに希望をもって(口:4/18)、分裂から和解に、荒廃を再生・回復へと新生を日常生活を通して実現したいです。

ミサの典礼の奉献・聖変化の部を通して、この和解・新生の恵みを受けたいです。

洗礼を受けた時の恵みと任務(ミッション)「預言職・祭司職・王職」の祭司職はラテン語で Pontifex(ポンテフェックス)を指し、橋を創ることを意味します。出かけて行って橋を創る、橋に成る使徒職を日々生きたいです。

定年退職の無い生涯かけて成し遂げる「橋を創り・橋に成る」任務(ミッション)を、神さまと人とを繋ぎ、人と人との繋ぎを十字架の上で「成し遂げ」(ヨ:19/30)られたイエス・キリスト(救い主)に世の終わりまで、地の果てまでいつも共に生きて頂いて(マタイ:28/20)、天(神さまの愛の世界)に入れて頂きたいと、皆様よろしくです。何とか90歳になった未だ青二才です。ぼちぼちの共歩きをよろしく願います。感謝。

林 尚志(ひさし)

オルガンの夕べ 6/21 (土)



聖堂の中に設置しているオルガンの説明(中里氏)と小演奏会は、多くの方が参加されました。松谷さんが弾いてくださるパイプオルガンの音色は海の波のようなさまざまな強弱さで、心に響き渡りました。もう少し・・・聴いていたいな・・・と、皆さまが思ったことでしょう。またの機会に。

夏至 キャンドルナイト 6/21 (土) 夜

前教皇フランシスコ回勅「ラウダート・シ」は地球の環境危機を訴えてきました。

最近、大規模な山林火災も世界規模で多発し、山林の樹木の管理と保全の大切さを感じます。地球の温暖化現象に北極や南極の氷山も解けてゆき、海水温の上昇で海の生態系も変化しています。農業においても地上の温度も季節感なく上昇し農作物が悲鳴を上げています。携わる人々の影響は計り知れない…。これから先の地球の未来が脅かされている現状を深く洞察し、わたしたちは、一つでも少しの時間でもエコの暮らしをしなくては、少しでも温暖化を阻止していかなければと強く思い、皆さまの一人ひとりの心に願います。



・・・今夜、電気・テレビを消し、ろうそくを灯し世界に思いを馳せて、祈ります。



初聖体 6/22 (日)



少し緊張したけど、ずっともらいたかったご聖体をもらえてうれしかったです。初めていただいたご聖体は、もなかの外側みたいだと思いました。毎週の勉強も楽しかったです。僕に神様のお話をたくさん教えてくださいました林先生、ありがとうございました。これから毎週の勉強の日がないのがちょっとさびしいです。これからも、神様のことをもっと知って、神様に向かって歩いていきたいです。(つかさ)



長男つかさの初聖体が無事終わり、夫婦共々とても嬉しく思うと同時に、気持ちが引き締まる思いがいたしました。

彼のペースでゆっくりと楽しく神様の事を学ばせてくださった林さん、ゆるしの秘跡を授けてくださったディン神父さま、そして初聖体の司式を執り行ってくださった作道神父さま、見届けてくださった兄弟姉妹の皆さま、本当にありがとうございます。まだまだ、キリスト者としては生まれたばかりの子羊のようなつかさを、どうか、これからも見守り育ててくださいますよう、皆さまのお力添えをよろしく願いいたします。

(母・靖代)



教皇フランシスコの思い出

愛:私は「神の憐れみによって見つめられている者」です。(『La Civiltà Cattolica』2013)。

信仰:信仰は論理から始まるのではなく、主によって愛され、赦されたという体験から始まります。

福音の喜び:「福音の喜びがなければ、信仰は抑圧的で重苦しいものになります。聖人たちは『しかめっ面』をした人々ではなく、希望と喜びに満ちている男女です。」(クレメンティーナ、2022)。

希望、『希望は欺かない』(2025):「キリスト者の希望は、裏切ることも欺くこともありません。なぜならそれは、何事も何者も神の愛から私たちを引き離すことはできないという確信に根ざすものだからです」。死んで復活したイエスは、私たちの希望の「核心」です。

ラウダート・シ(2015):「大地の叫びと貧しい人の叫びの双方に耳を傾げるために、環境についての討論の中に正義を取り入れなければならないということです。」「私たちが食べ物を無駄にする時、それは貧しい人々の食卓から食べ物を盗んでいることになるのです！」

「出向いて行く教会」:私たちは自分にとって快適な場所から出て行って、見捨てられた人々や傷ついた人々がいる隅へと歩み出していきます。福音宣教者には、いわば「羊の匂い」がしみており、羊は彼らの声を聞くのです。

福音宣教は重荷ではなく、キリストとの出会いから湧き上がる、あふれるばかりの喜びなのです。(『福音の喜び』)

シノダリティ:「教会の男女が壁を築くことでどれほど多くの損害がもたらされることでしょうか。なんと大きな損失でしょう!すべての人が歓迎されるべきです、すべての人が、すべての人が!」

(2024年10月26日)

重要な文書:

- 「ラウダート・シ」(2015):地球を「共通の家」として大切に呼びかける回勅。
- 「愛のよろこび」(2016):あらゆる状況にある家庭に対して、とても現実的な司牧への道を開く使徒的勧告。
- 「キリストは生きている」(2019):若者たちが信仰をもって勇敢に生き、それぞれの召命を識別し、教会と共に世界を刷新するよう招く使徒的勧告。
- 「兄弟の皆さん」(2020):兄弟愛と包括的な連帯を推進する回勅。

どうか私のためにもお祈りください。

Jb デイン



*2019.11.24 教皇フランシスコ長崎でのミサ

第40回下関市民平和ウォーク
 8/2(土) 出発 市民会館前 16時～
 到着 下関市役所 非核平和宣言塔

2025 平和行事
 原爆投下 80年平和への希望をあらたに
 ～核廃絶をわたしたちはあきらめない～

◇ 8月5日(火)13:00～15:30
 被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会
 「被爆80年 核兵器廃絶のための協働をめざして」 (ライブ配信有)
 /エリザベト音楽大学セシリアホール

○ 16:00～17:30
 平和祈願ミサ/世界平和記念聖堂
 (ライブ配信有)

○ 18:30～19:00
 平和のための祈りの集い/
 原爆供養塔前

◇ 8月6日(水) 8:00/原爆とすべての戦争犠牲者のためのミサ/
 世界平和記念聖堂 (ライブ配信有)

○ 10:00～12:00
 カトリック ユース プログラム
 /マリアホール
 「Catholic Voices for Peace
 ～世代をこえて、語り合う～」
 対象/中・高・大 広島教区HPを参照

○ 13:00～15:45
 日米カトリック大学・学術シンポジウム
 /エリザベト音大セシリアホール

○ 15:00～16:30
 8・6 キリスト者平和の祈り/
 日本基督教団 広島流川教会

○ 18:00～
 原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート/
 世界記念聖堂

◇ 8月9日(土)
 「ながさき平和の日/11:00～12:00
 長崎・原爆犠牲者のためのミサ/
 世界平和記念聖堂 地下聖堂

◇◇ 行事予定 ◇◇

8/ 3(日)18:00「平和を祈る」集い
 サビエル上陸記念碑前

8/ 9(土)11:00 慰霊祭/細江教会

8/15(金)11:00 聖母の被昇天

8/23(土)夕方～ 馬関祭
 愛の広場 出店の協力

8/30(土)11:00 常任委員会

9/ 7(日)ミサ後、宣教司牧評議会

9/ 9(火)19:00 協働体委員会

9/14(日) 敬老の祝福
 敬老会担当/中央地区

9/15(月・祝)広島教区の日と金銀祝

9/28(日) 美化運動

10/26(日) ペロト祭(バザー)

*8/9(土) 慰霊祭について・・・
 時間/11:00 場所/細江教会
 亡くなられた方を偲んでお祈りしましょう
 長府教会のミサ 10:00 に与ることもできます。
 後に、各自 納骨堂や墓地へお参りください。



旅立ち
 神のもとで永遠の安息を・・・

*2024.8 ～ 現在までの帰天者

- ・クリスティーナ 幡 節代 2024.08.21
- ・フランススコ・ザビエル 瀬戸 拓也 2024.09.29
- ・マリア アヌンシアータ 榎谷 紀子 2024.11.27
- ・マリア 吉村 千春 2025.01.09
- ・ヨハネ 野下 繁久 2025.03.28
- ・ヨゼフ 今村 正直 2025.04.05
- ・セシリア 吉見 梢 2025.05.08
- ・マリア 柿本 すみえ 2025.05.13
- ・トマス 道下 誠 2025.06.16

*後日、遺族の方からお聞きして・・・

- ・マリア 中原 富美枝 2017.04.05
- ・エリザベト 藤本 静子 2021.06.07

